様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月９日現在

機関番号：15101
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：20530630
研究課題名（和文）　内発的動機付けと治療フィデリティが認知矯正療法に与える効果
研究課題名（英文）　Effect of intrinsic motivation and treatment fidelity on cognitive remediation
研究代表者
最上多美子（MOGAMI TAMIKO）
鳥取大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：80368414

研究成果の概要（和文）：統合失調症の認知機能障害を改善し、機能的転帰を向上する目的の認知矯正療法を実施し、効果に参加する患者の内発的動機付けと、治療者の治療フィデリティがどの程度関係しているかを検証した。結果、患者の動機付けは認知矯正療法に肯定的な影響を与えており、治療フィデリティは適切に保たれていた。

研究成果の概要（英文）：Cognitive remediation aims to improve cognitive functions of schizophrenia and their functional outcome. We examined intrinsic motivation of mentally-ill patients and clinicians' treatment fidelity as potential factors

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：臨床心理
科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学
キーワード：統合失調症、認知機能障害、リハビリテーション、動機付け、精神障害、スーパービジョン

1.　研究開始当初の背景

(1) 統合失調症は、医療場面で代表的な精神疾患であるが、近年地域での自立生活に妨げとなるのが、注意や遂行機能の問題である認知機能障害である。認知機能障害を改善するために開発されたのが認知矯正療法であるが、国内での定着が求められている。

(2) 認知矯正療法は新たな心理的リハビリテーション手法であり、その正しい普及が求められる。認知矯正療法の実施者の適切な指導や、マニュアルが不可欠である。

(3) 統合失調症の患者の動機付けは、認知機能障害と関連していることが指摘されていることから、患者の動機付けの変化にどの程度認知矯正療法への参加が関係しているかを検討することは有意義である。

２．研究の目的

本研究の目的は、統合失調症の新たな心理

リハビリテーション法である認知矯正療法に、患者の動機付けと治療者の治療フィデリティが与える効果を検証することであった。

(1) 認知矯正療法前後の変化を検証するために、認知機能、動機付け、精神症状を測定した。
(2) 患者の変化に、実施者の要因が影響を与えていないことを確認するため、認知矯正療法の治療フィデリティを測定した。

３．研究の方法

３年計画で動機付け尺度を作成し、治療フィデリティの評定者を訓練し、認知矯正療法を実施する医療施設でフィデリティを測定した。

(1) 動機付け尺度の日本語版を逆翻訳を行って作成した。原版は英語であり、代表研究者がその開発に関わっており、原版の日本語版を作成するのに中心となったが、原語と日本語に流暢である関連領域の専門家の協力をあおぎ、英語から日本語への翻訳をした後、日本語から英語へ逆翻訳をした。また単に言葉のみでなく、原版が開発された米国と日本の精神疾患とその治療をとりまく環境がことなることから、文化的差異にも配慮し、微調整を行った。

(2) 認知矯正療法の治療フィデリティ尺度の項目を明確化し、研究目的から独立したフィデリティ評定者を訓練した。既存の認知矯正療法の項目を明確化する必要があった場合は、開発者に助言を受けた。治療フィデリティ評価者は、認知矯正療法のセッションを観察する必要があったため、大学院水準の教育を受け、心理療法の経験がある者を雇用した。その上で、モデルとなる認知矯正療法ビデオを見せ、評価を練習し、適切な評価者間信頼性が得られるまで繰り返した。

(3) 認知矯正療法を実施している医療施設で、患者の動機付けを測定した。また該当施設と実施者のフィデリティを測定した。

(4) 認知矯正療法の治療効果を測定した。認知機能は神経心理検査 BACS、動機付けは内発的動機付け尺度 IMI-J、精神症状は PANSS を用いて、各々測定した。これらの指標の変化を検討するに際し、これらに加えて患者の状態に影響を与える他の要因に関する情報を得るため、薬物の種類や量、罹患期間などについても尋ねた。

(5) 認知矯正療法の定着を目的として、定期的に指導を行い、助言をした。認知矯正療法が比較的新たな手法であることから、実践者の指導は治療フィデリティの点からも重要であり、可能な限り対面式で行い、遠方のため困難な場合は電話などを使用した。

４．研究成果

(1) 日本語版動機付け尺度は、適切な信頼性や、関連する臨床指標との妥当性を有していることが示された。動機付けは患者が自分から上達したい、興味がある、意味があると思うことから治療などに携わるときに強まる。統合失調症の患者の動機付けをあげることから認知機能障害 n 改善することから、動機付け尺度に関する成果は有意義である。

(2) 動機付け尺度の逆翻訳は、英和両方に精通した関連領域の専門家によりなされ、最終版を作成する前に若干名の患者に実施し、微調整を行った。その上で、適切な再検査信頼性と、内的整合性があることを確認し、日本語版内発的動機付け尺度は、統合失調症など重度の精神疾患をもった患者に臨床場面で使用するのに適していると判断した。

(3) 認知矯正療法の治療フィデリティは、実施者個人ごとではなく、実施している医療施設ごとに測定した。海外と異なり、国内では人員の異動が多いなど特有の状況に配慮し、なおかつ手法が適正に行われているかを確認するためである。治療フィデリティは、実施者の面接、設備の見学、認知矯正療法の観察により評価した。また、研究目的から独立した複数名の心理士を事前に訓練し、研究者バイアスがないよう努めた。評価者は評価事前の訓練において適切な評価者間信頼性を示したことから、複数の医療施設の認知矯正療法フィデリティの評価は適切に行われた。

(4) 認知矯正療法実施者のスーパービジョンと指導は、主として会議を通じて定期的に行われた。認知矯正療法の普及に貢献

することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 14 件）

① 最上多美子、中込和幸、認知矯正による予後改善−NEAR を中心に−、精神医学、査読有、53、2011、pp. 143-169
② 最上多美子、内発的動機付け役割に焦点化した認知機能リハビリテーション NEAR、精神医学、査読有、53、2011、pp. 49-55
③ 中込和幸, 兼子幸一、朴盛弘、最上多美子、池澤聡、認知リハビリテーション、こころの臨床、査読無、29, 2010、pp. 505-510
④ 最上多美子　他、統合失調症に対する認知リハビリテーション NEAR の紹介と予備的検討結果報告、認知療法研究、査読有、2010、pp.89-97
⑤ Choi J、Mogami T、 Medalia A、Intrinsic Motivation Inventory: An adapted measure for schizophrenia、Schizophrenia Bulletin、査読有、2010、pp.966-976
⑥ 池澤聡、最上多美子、中込和幸、認知機能と社会機能、Schizophrenia Frontier、査読無、2009、pp. 192-197
⑦ 池澤聡　他（27 名、25 番目）、統合失調症の認知機能障害に対する認知矯正療法の効果に対する予備的検討、精神医学、査読有、51、2009、pp.999-1008
⑧ Mogami T（15 名、1 番目）、A Japanese program that addresses motivational and cognitive deficits in chronic schizophrenia、Schizophrenia Bulletin、査読有、35、2009、pp.353
⑨ 中込和幸、最上多美子、池澤聡、統合失調症と社会脳、精神医学、査読有、51、2009、pp.257-264
⑩ 最上多美子（18 名、1 番目）、認知矯正療法とは何か、鳥取臨床心理研究、査読無、2、2009、61-68
⑪ 最上多美子、統合失調症を対象とした認知機能リハビリテーション、精神療法、査読有、34、2008、pp.325-332
⑫ 最上多美子、統合失調症の認知矯正療法、心理教育の役割と、就労支援、鳥取臨床心理研究、査読無、1、2008、pp57-62

〔学会発表〕（計 22 件）

① Mogami T （代表）、Adaptation of Intrinsic Motivation Inventory for Schizophrenia Research for patients with schizophrenia in Japan、2010 年 9 月 22 日、シドニー、オーストラリア
② 最上多美子（代表）、統合失調症の認知機能障害に対する認知矯正療法の効果、第 20 回に本臨床精神神経薬理学会・第 40 回日本神経精神や栗学会合同年会、2010 年 9 月 17 日、仙台国際センター
③ 最上多美子（代表）、内発的動機付けの役割に焦点化した認知機能リハビリテーション NEAR Phase I Study、第 9 回精神疾患と認知機能研究会、2009 年 11 月 7 日、海運クラブ
④ 最上多美子（代表）、精神疾患の認知機能障害に対する心理社会的アプローチ、第 9 回認知療法学会、2009 年 10 月 12 日、幕張メッセ
⑤ 最上多美子（代表）、統合失調症の認知リハビリテーションテーション NEAR における内発的動機付けの役割、第 28 回日本心理臨床学会、2009 年 9 月 20 日、東京国際フォーラム
⑥ 最上多美子（代表）、内発的動機付け尺度（Intrinsic Motivation Inventory）日本語版作成、第 73 回日本心理学会、2009 年 8 月 27 日、立命館大学
⑦ 池澤聡（20 名、18 番目）、統合失調症の認知機能障害に対する認知矯正療法の効果について、第 4 回日本統合失調症学会、2009 年 1 月 30 日、大阪大学
⑧ Mogami T （代表）、A Japanese program that addresses motivational and cognitive deficits in chronic schizophrenia、International Congress of Schizophrenia Research、2009 年 3 月 29 日、米国、カリフォルニア
⑨ 最上多美子（代表）、統合失調症の認知矯正療法導入と実践、第 27 回日本心理臨床学会、2008 年 9 月 6 日、つくば国際会議場
⑩ Mogami T （代表）、Cross cultural approaches to cognitive remediation: Lessons from Japan 、Cognitive Remediation in Psychiatry、2008 年 6 月 6 日、米国、ニューヨーク

〔図書〕（計 2 件）

① 最上多美子、亀島信也、福村出版、新し

いスーパービジョン関係、2010、pp.289
② 中込和幸、最上多美子、星和書店、「精神疾患における認知機能障害の矯正法」臨床家マニュアル、2008、pp.110

〔その他〕
ホームページ
http://web.mac.com/tamiko_mogami/Site/

認知矯正療法研修会開催　講師として参加
2010 年２月、３月、５月、８月に計 80 名の他職種を訓練

認知矯正療法に関する招待講演を実施
2008 年ー2010 年にかけて、コロンビア大学、北海道大学,」渡辺病院などで、計５回講演

６．研究組織
(1)研究代表者
最上　多美子（MOGAMI TAMIKO）
鳥取大学・大学院医学系研究科・教授
　研究者番号：80368414